

開催地名：大阪府吹田市	
開催日時	令和2年2月15日（土） 13:00～14:00
開催場所	内本町コミュニティセンター
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、地域住民 約50名
開催経緯	近年、災害が多発していることで、地域住民の防災に対する意識は高まっている。今回、東日本大震災の語り部を招き、被災地での体験や活動等についてお話を伺うとともに、女性や子供目線に立っての避難所運営についても情報を得たいと思う。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私の住む仙台市泉区は、人口21万5千人の政令都市である仙台の副都心、ベッドタウンである。仙台市は5つの区に分かれているが、泉区は内陸部であるため、東日本大震災においては津波の被害はなかった。</p> <p>私の所属する市名坂東町内会は、仙台市の泉区東部に平成20年に設立し、現在の加入数186世帯の町内会であり、働き盛りの40、50代の方や、単身赴任の家庭が多い中で、必然的に私達女性が立ち上がり、作り上げた町内会である。役員8名全員が女性であることも、設立2年目に建設した集会所のために銀行にローンを組んだのも仙台市では初めてのことである。</p> <p>町内会の3つのスローガンの中には、防災、子育て支援、ふるさとづくりとあるが、中でも防災に特に力を注いだ。身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会、そして、女性であってもひるまないことを心に秘めて、街をつくるために中核となるものとして、人が集まる場所、人を集める場所がなくてはならないと考えた。銀行にローンを組んでまでも、集会所建設に拘ったのはこのような思いからである。普段の町内会活動においても、活動できるのは主婦だけで、高齢者も少ない実情から、子ども会以外の組織はあえて作っていないので、町内会が自主防災組織と婦人防火クラブを兼ねているような状況である。</p> <p>（2）東日本大震災</p> <p>地域では、電気は2～3日、水道は3～4日、ガスは1カ月で復旧したので、各自が持ち寄った材料で子供達が調理するなど、比較的穏やかな時間も取れた。翌日から、折りたたみリヤカーで指定避難場所へ支援物資の引き取りに行ったが、支援を受けたのは3月12日と13日の2日間だけで、その後は各家庭で対処していただいた。集会所に集まった子供たちは、私達が区役所で得た、病院や給水車の情報等を、町内に広報するのに大活躍だった。学校も休みになっていたため、避難者の大学生と高校生が「何かできることを」と申し出た時に、「寺子</p>

屋」という形で子供達の勉強の面倒を見てもらうことにした。女の子は、小さい子の子守りをしたり、男の子は公園で鬼ごっこをしたり、それぞれができることを一生懸命していた。

(3) 震災後の活動

市名坂小学校区には1万名以上の人が入っており、小学校を拠点とした町内会、連合町内会、市民センター、児童館、民生委員、青年団、PTA、婦人防火クラブ等の20の地域団体がある。こうした組織を取りまとめ、平成25年度に運営委員会が発足した。行政に頼るのではなく、私たち地域住民一人ひとりの声を聞きながら、私は初代事務局長として邁進しているところである。

委員会では、市民センターや児童館との情報共有化、救護班、総務班、情報班等の各班の具体的な活動内容の充実化を計り、スムーズな運営を心がけている。そしてまた、地域の顔がよく見えることや気軽に声掛けできる雰囲気考慮し、女性ならではの視点を活かして活動するために女性コーディネーターを設置した。女性コーディネーターは、避難者の悩みや声を聞き出して、対応やアドバイスを行う。女性ならではの細やかな配慮で対応していくことが期待されている。

(4) 最後に

誰もが経験したことのない1,000年に一度と言われる大震災の中で、それぞれの役目を、みんなが自分なりに一生懸命に果たした。子供だからとか、男性だからとか、女性だからとかではなくて、私の役目、貴方の役目、みんな違ってそれでいいと思う。自然災害に立ち向かうことは難しいけれど、「防災」や「減災」について考え、実践する。そして一時、一瞬を大事にしていかなければならないと思う。



開催地より

自主防災組織での語り部の活動について、わかりやすくお話しいただいた。今後の各自主防災組織での活動に役立てられる内容だったと思う。